

ヨークシャーテリアの睡眠障害と問題行動が改善したケース

イ
メ
ー
ジ
写
真



日本ホメオパシーセンター札幌琴似 神田恵

JPHMA 認定ホメオパス No.1035

Z E Nメソッド修得認定 No.0471

アニマルホメオパス認定 No.0138

【要約】

夜に落ち着きがなく、眠れなくなったヨークシャーテリアのケース。飼い主のショックに感応しての問題行動と考えレメディーを選んだ結果、一度の処方では落ち着きを取り戻した。

以下、動物健康相談会（7月28日）における情報

【主訴】

ヨークシャーテリア（ヨーキー）、オス、14歳 普通体型

5月くらいから、夜にそばにいるのが飼い主だけだと落ち着いて眠らなくなった。ハウスと居間をうろろし、ハウスの中で激しく吠える。パートナーがいるとそのようなことはない。先週、胃腸薬を処方してもらっている動物病院に行って相談したが特におかしなところはなかった。

【普段の生活】

食事 朝と晩の2回、量は少なめ、水は朝、昼、夜の3回、ジャーキーが好き

散歩 朝か夜に15分くらい。可能な日は朝と夜両方

薬 胃腸薬と、ジルケーン（ミルク成分のサプリ）

性格 甘えん坊、寂しがり屋、臆病、神経質、内弁慶

怖いもの 大きな音、急に近づくもの、傘

【タイムライン】

0歳 飼い主宅でヨーキー母が出産。混合ワクチン2回

5歳ころ この頃から驚くと噛みつく癖がある。トリミングをものすごく嫌がった

10歳ころ 脱肛しやすくなり、便が出づらくなった

12歳ころ この頃から、水を飲むとたまに吐くようになった

【飼い主（30代女性）への聞き取り】

Q. 落ち着かなくなった5月頃に何か変化はあったか

A. 私の耳の調子が突然悪くなった。右耳がふさがって、音がこもる感じ。痛みはなかったが、耳鳴りとめまいもあり、病院を受診。鼓膜など炎症や外傷があるわけではないと言われ、漢方薬とステロイドが処方された。現在、めまいはほとんどなくなったが、音がこもる感じはまだ時々ある。

Q. 耳の調子が悪くなった原因に心当たりはあるか。

A. ケガなど外傷性のショックはなかった。ただ、不調が起きる前日にあるブログを読んで、その内容に大きなショックを受けてズドンと落ち込んだ。しばらく精神的に引きずったが、今は大丈夫。

【レメディー選択】

夜 Phos. (リン) LM1 + Tub. (結核菌) LM2 + Nux-v. (マチンシ種子) LM3 + Acon. (トリカブト) LM3

随時 ペット用サポート神経 + Calc-p. (リン酸カルシウム) 12X + Adren-m. (副腎髄質) 12C + Adren-c. (副腎皮質) 12C

【選択の根拠】

① Q X - S C I O (波動測定器) による測定結果

サイキックアタック、心理的要因、脳の問題、アドレナリンの問題、脂肪酸不足などを検知

② T B R 検索

※ループリック (選択した症状)

1 : 836# 3. 全般 - 2. 睡眠 - 4. 不眠 - 不眠全般 :

2 : 1065# 3. 全般 - 3. 全般 - 1. 全般 - 肉体的落ち着きのなさ(動揺、そわそわすること) :

3 : 1066# 3. 全般 - 3. 全般 - 1. 全般 - 肉体的落ち着きのなさ(動揺、そわそわすること) : - 内的動揺(興奮、騒がさ)、身体の :

4 : 839# 3. 全般 - 2. 睡眠 - 4. 不眠 - 不眠が、その他の病訴によって引き起こされる :

5 : 777# 3. 全般 - 1. 精神 (および気質) - 1. 精神 - 動揺している(興奮している、気が立っている、緊張している) :

6 : 778# 3. 全般 - 1. 精神 (および気質) - 1. 精神 - 多情な(敬慕・熱愛、愛着、愛したがり) :

7 : 1691# 4. 基調 - 1. 基調 - 1. 時間 - 夜に :

※検索結果、上位のレメディー

順位	レメディー	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	Nux-v.	7	20	3	3	3	2	4	3	2		
2	Acon.	7	18	3	3	2	2	3	1	4		
3	Sep.	6	20	4	4	3	4	3		2		
4	Chin.	6	20	4	3		4	3	2	4		
5	Merc.	6	19	4	4	1	4		2	4		
6	Phos.	6	18	3	2		4	2	4	3		
7	Calc.	6	18	4	3		4	2	2	3		
8	Bell.	6	18	3	4		3	4	1	3		
9	Graph.	6	18	3	2	3	3		3	4		
10	Sil.	6	17	4	2		3	1	3	4		
11	Rhus.	6	17	3	4		4	2	1	3		
12	Coff.	6	17	4	1		4	4	1	3		
13	Hyos.	6	17	3	4	1	3		4	2		
14	Puls.	6	16	4	1		4	1	3	3		

症状が起こった時期や QX-SCIO 測定の結果から、飼い主が受けた耳が聞こえにくくなるほどの精神的ショックに感応したがゆえの問題行動ではと考えた。

T B R 7 項目をすべて満たす Nux-v.は神経の昂ぶりに、Acon.はショックにそれぞれ合致。鉱物は霊的過敏さで Phos.を選んだ。随時チンクチャーも神経を落ち着かせる「ペット用サポート神経」にアドレナリン髄質 & 皮質のレメディーを加えた。マヤズムレメディーは過敏さから Tub.を選択。臆病で神経質など Calc 的な気質があるので、ミネラルレメディーの Calc-p.も加えた。

【結果】

2 週間後に飼い主からメール。レメディーを摂り始めて翌日からだんだん落ち着きが戻ってきて、1 週間で夜に起きなくなったとのこと。

【考察】

ペットが飼い主のショックをわがこととして受け取ってしまったケースだった。飼い主と出生時からともに過ごし、結びつきが強いがゆえのことだろう。飼い主宅で出生したため、生年月日や出生時刻、出生場所が詳細にわかっていたことで、QX-SCIO 測定の精度が高かったことも奏功し、レメディー選択がうまくいったと思える。

日本ホメオパシーセンター札幌琴似（ナチュラルセラピーサロン Aralia）
お問い合わせはホームページ <https://aralia.jp/> よりお願いいたします